

「阿波しらすぎ文学賞」が華々しい船出

発足から一年、二〇一八年は徳島文学協会にとつて飛躍の年となった。最も大きな取り組みは、徳島新聞社との共同主催にて実施した小説コンクール「阿波しらすぎ文学賞」だった。二〇一七年夏より計画をスタートさせ、年明けには正式に告知、二月より募集を開始した。徳島県内で主催する文学賞としては恐らく初の全国公募の文学賞となった。

最終選考委員長を芥川賞作家の吉村萬吉氏に依頼、原稿用紙換算十五枚以内という掌編小説に絞ると共に、徳島ゆかりの何かを作品中に登場させてもらうことを条件として、独自性を出した。募集期間中はチラシやポスターなどを全国の図書館や文化講座、教育機関に送り、また文学賞の広報サイトに情報を掲載してもらった。さらにはSNSなどをフルに活用するなど様々な工夫を行った。

六月十日に応募が締め切られた。結果、全国二十八都道府県より予想を大きく上回る四二二点の応募があった。

応募作品は徳島文学協会にて約一ヶ月をかけて一次選考を行い、七月中旬に通過作品二十点が選ばれた。その中から大賞の「阿波しらすぎ文学賞」、徳島県内在住者から選ぶ「徳

島新聞賞」、二十五歳以下を対象にした「徳島文学協会賞」が選出されることとなった。吉村萬吉氏の選考によって、初代「阿波しらすぎ文学賞」に輝いたのは、徳島を一つの仮想世界に見立てた、大滝瓶太さんの「青は藍より藍より青」。また「徳島新聞賞」には坂東文さんの「海風の吹く町で」、「徳島文学協会賞」には宮月中さんの「お見送りの川」がそれぞれ選ばれた。

九月九日には新聞放送会館にて授賞式が開催された。授賞式後には記念行事の文学トークも開催、最終選考委員長の吉村萬吉氏の他にゲスト作家の芥川賞作家玄月氏、直木賞作家の三浦しをん氏が受賞者たちと様々な議論を展開した。会場には一五〇人を超える人々が詰めかけ、著名な作家と受賞者の話に耳を傾けた。

「阿波しらすぎ文学賞」は一回目としては想像以上の大きな成功を収めたと言える。ただ今後この勢いをどのように第二回につなげていくか、多くの方の知恵を借りながら、全国に誇れる徳島の文芸文化として育てていくことを目指していきたい。ぜひ今後も会員の皆さんのより一層のご助力をお願いしたい。



上：文学記念トークの様子
左：受賞者を伝える徳島新聞朝刊一面

まだ見ぬ世界へ

藤本 涼太

家の玄関にトイレがありまして、その扉の前に母が山積みにしていく朝刊があります。

ある朝、部屋でヒマをもて余している、ふとトイレに立ち、いつもの様に朝刊の前を通りました。そのとき、徳島人向けの文学協会の記事が目飛びこみ、すぐにインターネットで調べて、入会の申し込み、数日後に会報が届きました。

僕の得意分野は短編のアウトロー小説です。十二歳のときにマンガ家を目指しはじめまして、二十八歳まで続けました。実際は仕事が忙しくて、描く時間が確保できず、歳を追うごとに尻すぼみになってしまいました。

二十八歳のときに小説家へ転向。自慢ではありませんが、電子書籍として自費出版もできました。ところが、販売数はゼロ冊でした。(まあこんなものか)と、妙に納得したものです。

さて、今回エッセイを書きまし

た旨としましては、文芸誌への応募をしようと決意して、ならば、先に先方の方々と一度は顔を合わせるのが礼儀だとかかんとか考えまして、未熟ながら筆をとった次第であります。

まずは会合などで会の空気を学びとり、先輩方にたくさんご指導を頂き、仲間たちと語らいながら、楽しい文学ライフを生きていきたいと願っております。

まだ見ぬ世界にいる、皆様へー。

「とと」掲載エッセイを募集します

文学に関することなどを題材にした八百字以内の原稿を、ワード形式で事務局へお送りください。(送信時には件名に『とと掲載用』と入れてください)

「とと」は春、夏、秋の年三回発行ですが、一回につき掲載できるエッセイは二〜四作品です。先着順で掲載できない場合は次号に回します。

物故会員

謹んでお悔やみ申し上げます

徳島文学協会・発足会員

濱口佳子様

『徳島文学 Volume 2』 二〇一九年春、発行。

徳島文学協会発行の文芸誌

『徳島文学 Volume 2』の原稿を募集します。

徳島文学協会では、年一回文芸雑誌を発行しています。芥川賞作家やプロの文学者を筆者に招き、地方の文芸誌としては類を見ない商業雑誌に匹敵するクオリティの雑誌を目指します。会員の皆さまの優秀作品をプロの作家と同じ誌面に無料で掲載いたします。皆さまの傑作をお待ちしています。会員の方全員に、最新号を進呈します。

◆応募資格

徳島文学協会会員限定

◆応募作品

小説・評論・随筆・詩・短歌・俳句など広義の文学作品、および書評。未発表作品に限る。

◆原稿規定

枚数不問。掲載時に原則、テキストデータの提出が可能なもの。縦書きを原則とします。パソコン・ワープロ原稿の場合は四百字詰原稿用紙での換算枚数を明記してください。表紙に会員番号・住所・氏名・電話番号をお書きの上、作品にはページ番号をつけ

てしっかりと綴じてください。応募作品の返却はいたしません。

◆締め切り

二〇一九年一月十日(木)当日消印有効

徳島文学協会事務局まで郵送ください。

◆掲載発表

応募された作品は会長を含む徳島文学制作実行委員会で厳正に審査し、掲載可か不可を決定します。掲載が決まりましたら、ご本人にご連絡いたします。掲載作品の著作権は掲載から一年間、徳島文学協会に帰属します。

◆宛先

〒七七一-三三〇一

徳島県名西郡神山町

阿野字方子一〇三

徳島文学協会事務局

「原稿募集」係

電話〇八〇-六二八四・〇二九六
(日曜祝日を除く九時〜十七時迄)

新しい講座をご紹介します

パソコン倶楽部くみんなで文芸誌をつくろう

パソコンで文芸作品を創作するための基本的知識や技術を学べます。
来年夏創刊予定の「みんなの文芸誌『カクヲタノシム』」への投稿を目標としています。

玄関マツトから

大唐 静子

「何かをなすためには、思い切って自分を玄関マツトから、外に蹴り出すことが必要。」

ある作家の本に、こんな意味の言葉を見つけたのは数年前だった。誰でもが立つ玄関マツトだが、そこから自分を蹴り出せるのは、限られた人なのだと思えた。若いうちに自分を蹴りだせる人が「何かをなす」のだろう。

専業主婦だったが、定年後の夫の仕事をして十一年手伝った。社会参加した、貴重な体験だった。そして、現役を卒業する開放感をも味わった。仕事を終えるって、年取るって、こんなにも心が自由を感じるものなのか。

毎日がフリーになったら何でもできる。自分を変えることも。そんな思いが湧いて出た。残る自由時間を何に使

おうと心を覗いたら、やっぱり書きたい。との思いが沈んでいた。続けてはきたが、自己流だ。基礎から学んだら、もしかしたら、あわよくば、と欲が出た。しかしそうした場合は、「高齢者」には場違いかも知れない。それでもやる？ ペシヤンコになったらどうする。これまでの私がブレーキを掛ける。これって、玄関マツトの上でモジモジしてる！ 今、なのか。

自分を蹴り出す先を捜した。発足して新しい徳島文学協会が受け止めてくれた。途端に、エッセイ講座、パソコン倶楽部受講と、生活が新しい動きを始めた。

「ーさん、こちらへ、パソコンのお手本画面を見に来てくれますか。」

親しげに私の名前が呼ばれる。自分を蹴ってよかった。そして、年寄るのは悪くなかった。



実演作業を見学するパソコン倶楽部参加者のみなさん

事務局からのお知らせ

★メールでお知らせが届いていない方へ

協会メールに、『アドレス登録』をしてください。最新イベント情報ほか緊急時のご連絡等にも利用させていただきます。

★公式ツイッター

できました！

講座やイベント開催ほか最新の情報をお知らせしています。ぜひご覧ください。いいね、フォローー大歓迎です！

<https://twitter.com/tbungaku>

みんなの文芸誌

『カクヲタノシム』

～二〇一九年夏創刊予定～

「書くことを楽しみたい人のための文芸誌」ですので、どなたでもご応募できます。「みんなの文芸誌編集委員会」が一通り目をとおり、簡単に推敲・編集させていただきます。はじめて作品を書かれる方や文章の書き方に自信のない方でも、お気軽にご参加ください。

ただいま原稿募集中！

- ジャンルは問いません。
 - 枚数に応じた掲載料が必要です。
 - 一枚～五枚千円
 - 六枚～十五枚二千円
 - 十六枚～三十枚程度三千円
 - ワードで制作した原稿に限りま
 - す。応募はメール添付のみ。(郵送不可)
 - 原稿提出の締切は三月末。
 - お申込みは一月末まで。
- 事務局まで、電話またはメールで予定枚数とジャンルをお知らせください。詳しい応募要項をお送りいたします。

文学イベント案内

「短編小説実作講座」

気軽に学んでいただける小説実作講座の入門編。小説の基本から具体的な表現方法まで分かりやすく解説。初めて小説を書く方でも、コツをつかむことで短編小説を完成させることができます。

■開催日 ①二〇一八年十二月八日(土)

②二〇一九年一月二十六日(土)

③二〇一九年三月九日(土)

毎回 十九時～二十時半

■場所 徳島県立文学書道館

■講師 佐々木義登

■参加費 会員一五〇〇円、非会員二五〇〇円

■定員 十五人

.....

「パソコン倶楽部・特別実用講座」

～ワードでつくる年賀状～

主にハガキや手紙にお気に入りの写真やイラストを添えたお便り(年賀状・クリスマスカード等)を作成します。その他、普段パソコンを使っている方からないことがあれば、お気軽にご質問ください。

二〇一九年夏創刊予定のみんなの文芸誌『カクヲタノシム』の原稿設定方法の説明もいたします。

■開催日 二〇一八年十二月十五日(土)

十八時半～二十時半

■場所 徳島県立文学書道館

■講師 パソコン倶楽部部長 魚井美佐

■参加費 会員一〇〇〇円、非会員一五〇〇円

■定員 十五人

※ご自身でお使いのノートパソコンをご持参ください。

その他、延長コード、筆記用具、ハガキに入れた写真、イラスト等のデータをご用意ください。

「小説広場」～みんなで合評会～

あなたの書いた小説を合評会に出してみませんか。作者であるあなたにも、見えなかったものが見えてくるはず。会に参加して創作を志している人の作品を読むことで教えられることもあるはずです。作品を提出して下さる方、作品はなくても合評会に参加して下さる方を募集しています。

■開催日 ①二〇一九年一月二十三日(水)

②二〇一九年二月二十日(水)

③二〇一九年三月二十日(水)

毎回 十時～十二時

■場所 徳島県立文学書道館

■アドバイザー 藤代淑子、久保訓子ほか

■参加費 会員一〇〇〇円、非会員一五〇〇円

■定員 十五人

※合評作品は、随時受付しています。

詳しくは事務局までお問い合わせください。

.....

「エッセイ入門講座」

どなたでも文章スキルを身につけていただくことで素敵な文章が書けるようになります。

ぜひ楽しみながらエッセイを執筆してみましよう。多くの人に読んでもらってよかったですと言われるような文章の書き方を伝授します。講座では実際に文章表現にチャレンジしていただき、その場で講師がレクチャーします。

■開催日 二〇一九年二月十七日(日)

十九時～二十時半

■場所 徳島県立文学書道館

■講師 佐々木義登

■参加費 会員一五〇〇円、非会員二五〇〇円

■定員 十五人

「パソコン倶楽部」

～みんなで文芸冊子をつくらう～

パソコンで文芸作品を創作するための知識や技術を講習します。目標はパソコンで作ったデータをもとに、みなさんのオリジナル文芸冊子を作ること！ワードでの基本的な文字入力、便利な編集方法等をお伝えします。個々の質疑応答を中心に進めたいと思いますので、ご質問等がございましたら、お申込の際に事務局までお伝えください。

■開催日 二〇一九年三月十六日(土)

十四時～十六時

■場所 徳島県立文学書道館

■講師 パソコン倶楽部部長 魚井美佐

■参加費 会員一〇〇〇円、非会員一五〇〇円

■定員 十五人

※ご自身でお使いのノートパソコンをご持参ください。

ご用意できない場合はお申込の際にご相談ください。

新年会のお知らせ

新年会を開催いたします。ご参加いただける場合は二〇一八年十二月末までに、徳島文学協会事務局までメール、電話にてご連絡ください。

■日時 二〇一九年一月五日(土) 十九時～

■会場 たきち

住所：徳島市寺島本町東一十六
電話：〇八八-六二六-八〇〇-一

■会費 四五〇〇円

「とことん：古代エジプト文明の知恵の神」トートに由来する。

ご入会や講座のお申し込み・お問い合わせは徳島文学協会事務局まで

〒771-3201 徳島県名西郡神山町阿野字方子 103 TEL : 080-6284-0296

society@t-bungaku.com http://www.t-bungaku.com/